

平成 29 年 2 月 9 日
月島機械株式会社

B-DASHプロジェクト実証施設 完成式典を開催
(脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化、燃料化技術実証研究)

月島機械株式会社（社長：山田和彦）、サンエコサーマル株式会社^{※1}（社長：本橋時男）、日本下水道事業団^{※2}（理事長：辻原俊博）、鹿沼市（市長：佐藤信）、公益財団法人鹿沼市農業公社^{※3}（理事長：佐藤信）の5者からなる共同研究体は、国土交通省が実施する下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）^{※4}において提案した「脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化、燃料化技術実証研究」の実証施設を鹿沼市黒川終末処理場内に建設し、本日9日に完成式典を行いました。

本技術は、中小規模の下水処理場を対象とした脱水乾燥システム（機内二液調質型遠心脱水機＋円環式気流乾燥機）を用いて乾燥汚泥を製造し、下水汚泥の肥料化・燃料化などの多様な有効利用への適応性や設備の性能、ライフサイクルコスト縮減等を実証するものです。



設備写真



式典写真

本技術の特徴として、機内二液調質型遠心脱水機から排出される脱水汚泥が細粒状および低付着性であることを利用し、機器構造やシステムがシンプルな円環式気流乾燥機を適用したことで安価な設備としたこと、また乾燥汚泥含水率の調整範囲が10～50%と広く、単一の設備において多様な有効利用に適用可能な乾燥汚泥を製造することがあげられます。

平成27年5月に改正された下水道法における肥料化、燃料化への努力義務への対応など、下水汚泥の多様な有効利用への展開を図ることで、環境の保全と循環型社会の構築を目指します。

今後、共同研究体の構成員と協力し、設備の連続運転や肥料化、燃料化といった有効利用への適用性などを実証してまいります。

■脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化、燃料化技術実証研究の概要

設置場所：鹿沼市黒川終末処理場内（鹿沼市上殿町673-1）

汚泥処理量：消化汚泥 4.2m³/hr（約100m³/日）

乾燥汚泥量：約1.9～3.5ton/日（乾燥汚泥含水率 10～50%）

*1 サンエコサーマル株式会社（所在地：栃木県鹿沼市下石川737-55）

産業廃棄物および一般廃棄物の減量・無害化のため安定した廃棄物処理事業を基幹事業として展開する月島機械のグループ会社です。鹿沼市において昭和62年から廃棄物処理事業を営み、また平成10年からはサーマルリサイクルとして焼却廃熱を活用した発電・売電事業を推進しており、平成26年10月からは太陽光発電施設「サンエコソーラーファーム」による発電・売電事業も行い、栃木県を中心とした周辺地域における循環型社会の構築に貢献しています。

*2 日本下水道事業団（所在地：東京都文京区湯島二丁目31番27号）

地方公共団体の下水道事業に関して、各種計画策定や経営支援などの技術援助、施設の設計・施工の受託、技術開発、地方公共団体職員向けの研修等の業務を行う公的機関です。日本の下水処理施設の約7割に当たる約1,400箇所の下水処理場の改築・更新に関わり、日本の下水道を支えています。

*3 公益財団法人鹿沼市農業公社（所在地：鹿沼市塩山町1329-19）

鹿沼市が設立した公益財団法人であり、農地利用集積事業や循環型社会形成事業を行っています。

*4 B-DASHプロジェクト

国土交通省では、新技術の研究開発及び実用化を加速することにより、下水道事業におけるコスト縮減や再生可能エネルギー創出等を実現し、併せて、本邦企業による水ビジネスの海外展開を支援するため、下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）を実施しています。事業の実施にあたっては、国土交通省にて有識者の審議を経て実証事業を採択し、国土技術政策総合研究所からの委託研究として、民間企業が必要に応じて地方公共団体や大学等と連携しながら実証研究を実施しています。

《本リリースに関するお問い合わせ先》

月島機械株式会社 経営企画部（広報・IR担当）

TEL 03-5560-6513

《脱水乾燥システムに関するお問い合わせ先》

月島機械株式会社 水環境事業本部 新事業推進部

TEL 03-5560-6540

以上